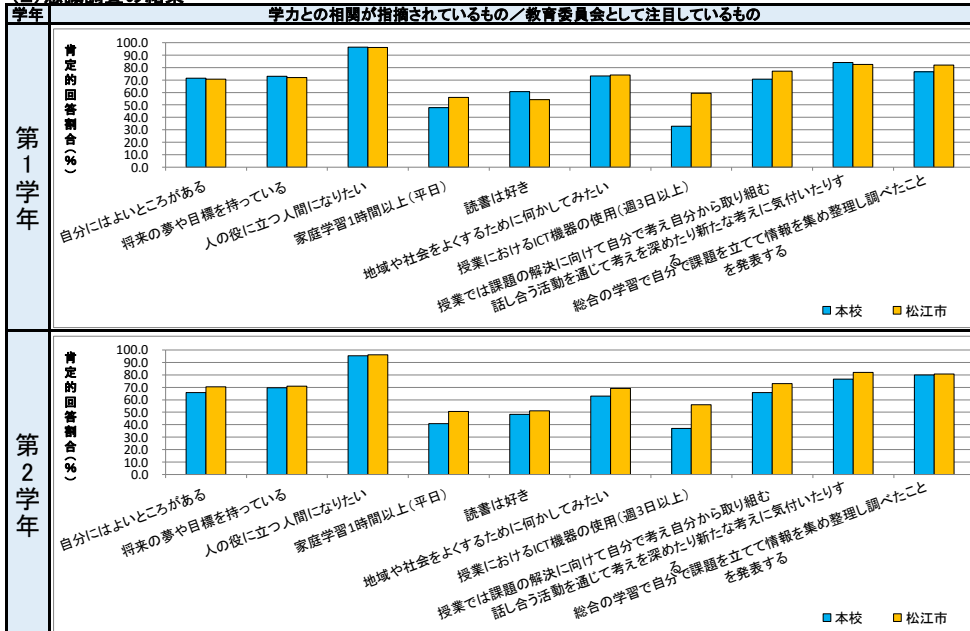


(1)教科調査の結果

学年	教科	分析(成果○/課題●)	改善策(●)
第1学年	国語	成果 ○「書くこと」のなかでも、「日常生活の中から題材を決める」「相手の立場に立って文章を整える」「推敲」の領域で全国推定値と同等の力がある。 ○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すことができる。	・「話すこと」「聞くこと」言語活動の際には、意見を発表して終わりではなく、話し手の考えと自分の考えとを比較し共通点や相違点を整理する時間を設ける。  ・基礎的な定着に関して、学び合いを通して、学習内容の理解を深める。 ・家庭学習の課題を工夫し、基礎基本の定着を図る。
		課題 ●「話すこと・聞くこと」の中で、必要に応じて質問しながら話の内容を捉える力に課題がある。 ●相手の話すことを筋道を考えながら、内容をとらえることが難しい。	
	数学	成果 ○基本的な比例反比例の問題を解ける力がある。 ○正負の数を理解している。それを用いて表を読み取り、平均値を求めることができる。	
		課題 ●文字式や1次方程式の問題を解く力が定着していない。 ●分数を用いた計算をする力が定着していない。	
	英語	成果 ○会話練習などの帯活動は学習活動に一定の成果があった。 ○「聞くこと」「読むこと」の正答率が高い。 ○習得した語彙を活用して聞き取ったり読み取ったりする力がある。	
		課題 ●語彙量が少なく、文法の定着が弱い。 ●「書くこと」に苦手意識をもっている生徒が多く、無回答の生徒も多い。	
第2学年	国語	成果 ○「読むこと」の領域では市の正答率を上回っている。 ○「情報の扱い方に関する項目」の領域は市の正答率と同等の力がある。	・定期的な小学校で学習した漢字や文法、歴史的仮名遣いに関する小テストなどを実施し、基礎的な知識の定着を図る。  ・基礎的な復習問題を用意して、基礎学力の定着を図る。 ・数学的な考えを用いて、問題をくり返し解く。  ・授業で基礎的な復習問題プリントを用意して、知識・技能の定着を図る。 ・学力に応じて、取り組む課題の難易度を調節する。
		課題 ●「歴史的仮名遣いについての理解」の正答率が市に比べて低い。 ●正しい漢字の使用や、文法などの基礎的な知識・技能が身につけていない。	
	数学	成果 ○式の計算や連立方程式の単元は、目標値に近づいている。 ○既習の内容と関連づけて解く図形の問題は正答率が高い。	
		課題 ●全般において、基礎的、基本的な学習の内容が定着していない。 ●記述回答の問題を解くことに苦手意識がある。	
	英語	成果 ○「読むこと」の領域では、対話文を読み、大まかな内容を読み取る力がある。 ○書くことに苦手意識はあるが、対話の流れに沿った回答を書くこととする生徒が多い。	
		課題 ●「書くこと」の領域では、単語のスペルミスや語順の誤りなど、基礎知識が身に付いていない。 ●「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」の領域で、場面に合った適切な表現を用いる力が定着していない。	

(2)意識調査の結果



＜傾向と今後の対策、分析＞  
 成果○:強み/伸ばしたい点 について  
 課題●:弱み/改善を要する点 について

【第1学年】  
 ○人の役に立ちたいという思いや願いをもっている生徒の割合が高い。  
 ●語彙量や読解力に関わる読書量が少ない。  
 ●基礎学力を伸ばすために学習習慣の定着を図る。

【第2学年】  
 ○人の役に立ちたいという思いや願いをもっている生徒の割合が高い。  
 ●授業でのICT機器使用の活用場面が少ない。  
 ●家庭学習の時間と習慣化が不十分である。

【R7学力調査受検者数】

第1学年	201	名
第2学年	181	名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示